

カタログ訂正のお知らせ

当社発行のカタログにおいて下記のとおり印刷・記載の誤りがありました。
お詫び申し上げます。

■カタログ名

『コントロールコンボ総合カタログ 2006』 (2005年6月発行) (カタログ番号SAOO-206A)

■掲載箇所

176ページ 『●負荷電流－周囲温度定格』
204ページ 『電力調整器 使用上の注意』

■正誤内容

誤	➡	正
<p>右記2点は記載されていません。</p>	<p>【176ページ】 UL規格に対応した特性データを追加します。 (詳細資料No.1を参照ください。)</p> <p>【204ページ】 使用上の注意を追加します。 (詳細資料No.2を参照ください。)</p>	

次ページにつづきます。

■対応方法

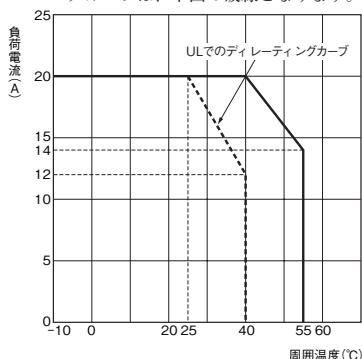
差し込みにて対応します。

詳細資料

詳細資料No.1

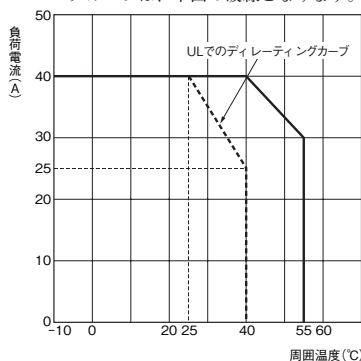
「●負荷電流 - 周囲温度定格」に追加

注. 形G3PX-220シリーズのULでのディレーティングカーブは、下図の破線となります。



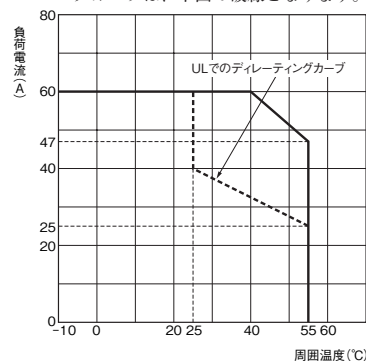
1) 制御盤内へ設置の場合、下記の「(3) 制御盤外への換気」を参照ください。

注. 形G3PX-240シリーズのULでのディレーティングカーブは、下図の破線となります。



1) 制御盤内へ設置の場合、下記の「(3) 制御盤外への換気」を参照ください。

注. 形G3PX-260シリーズのULでのディレーティングカーブは、下図の破線となります。



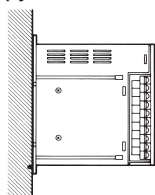
1) 制御盤内へ設置の場合、下記の「(3) 制御盤外への換気」を参照ください。

詳細資料No.2

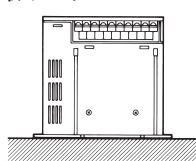
「電力調整器 使用上の注意」へ追記

●取り付け方法について

垂直方向



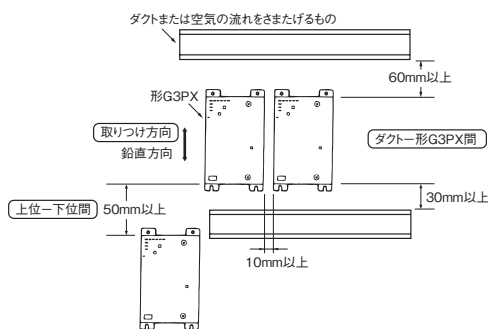
平面取り付け



注. 平面取り付けの場合、負荷電流を30%のディレーティングをしてください。

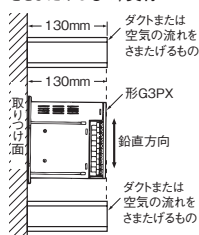
(1) 電力調整器の取り付け間隔

盤内取り付け条件



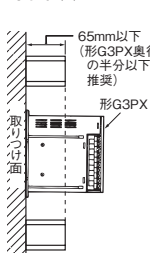
(2) 電力調整器とダクト(または空気の流れをさまたげるもの)の関係

ダクト(または空気の流れをさまたげるもの)奥行



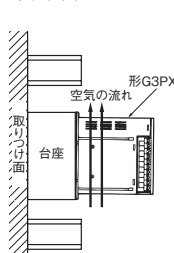
奥行方向をダクトで覆ってしまうと放熱が悪くなります。

対策案(1)



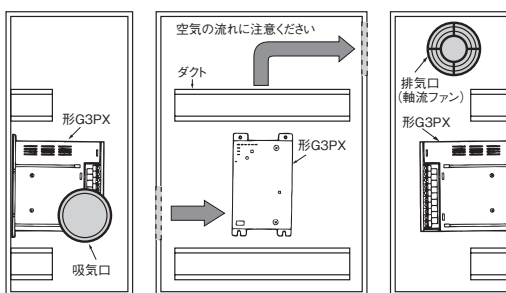
奥行き短いダクトを使用して空けてください。

対策案(2)



ダクトを短くできない場合は台座(金属製)を設けて、形G3PXをダクトで覆わないようにします。

(3) 制御盤外への換気



※吸気口あるいは排気口がフィルタ付きの場合、目詰まりによる効率低下を防ぐために定期的な清掃を行ってください。
 ※吸気口や排気口の内外の周辺は吸気・排気の障害となるような物を置かないようにしてください。
 ※熱交換器使用時は、形G3PX前面の位置に取りつけるほうが効果的と思われます。

- ・形G3PXの周囲温度を下げる。
 ※定格電流は形G3PXの周囲温度40℃での値です。
 (一部25℃の機種もあります。)
- ・形G3PXは、半導体素子で負荷を開閉していますので、通電により発熱し盤内温度も上昇します。この発熱を制御盤にファンを付加し換気することで、形G3PXの周囲温度を下げると信頼性が向上します。(10℃の温度低減で、期待寿命が2倍になると言われています。：アレニウスの法則)

形G3PXの定格電流(A)	20A	40A	60A
形G3PX 1台当りのファンの数	0.31台	0.62台	0.93台

例: 20Aの形G3PX 10台だと、0.31×10=3.1→ファンが4台必要です。
 ※ファンの大きさ: 92□、風量: 0.7m³/分、盤の周囲温度: 30℃で算出。
 ※同一盤内、他機種からの発熱は、別途換気が必要です。